



(1) 入学前予約型給費奨学金 「おゝ明治奨学金」

一般選抜出願前（12月下旬予定）に採用が決定する給付型奨学金。2023年度入試から家計基準を、2024年度入試から成績基準を緩和し、対象者を拡大。

※詳細は募集要項（ホームページに掲載）でご確認ください。

【申請期間】2024年度入試では2023年10月13日（金）～2023年11月10日（金）

【給付額】授業料年額1/2相当額

【給付期間】4年間 ※資格継続基準を満たした場合

(2) バイオリソース研究 国際インスティテュート (MUIIBR)

アニマル・バイオテクノロジーを基盤とした研究を推進。ブタを用いた研究から、ヒトの病気の仕組みや治療法を探っており、それらの研究を土台に、生理学的な特徴がヒトと非常に近いといわれるブタの臓器や組織を、臓器移植医療に利用する研究を行っている。糖尿病と腎不全の治療が主要な研究テーマ。

(3) Meiji Global Village

国際化推進事業の一環として、和泉キャンパスに全216室の国際混住寮「明治大学グローバル・ヴィレッジ (MGV)」が2019年春オープン。寮内にはユニットタイプの居室に加え、リビングやプレイルームなど、さまざまな共用スペースが配置されており、留学生と日本人学生が日常的な交流の中で、共に学び合える設計となっている。



(4) 「就職に力を入れている大学」 14年連続 1位

高校の進路指導教諭が選ぶ「就職に力を入れている大学」ランキング（大学通信調べ）で、14年連続 1位に選出。年間1,000社以上の企業が協力する学内イベントの実施や、就活のノウハウを詰め込んだ「就職活動手帳」の配付、さらには面接練習やエントリーシート添削といった各種選考対策など、手厚いサポートが高く評価されている。コロナ禍においても、他大学に先駆けたオンライン対応を実現した。



LINE でつながる。



2022年3月に誕生した「和泉ラーニングスクエア」



2025年4月開館予定の「生田第二中央校舎(仮称)」

「人間が人間として生きるに値する」と尊厳を脅かす諸問題に向き合い、これを解決する技術・システム・思想・知恵を生み出すという重大な役割を担っています。「権利自由」「自立自治」を建学の精神とする本学は「人間が人間として生きるに値する」と平和で持続可能な社会（世界）の創出を目指す研究・教育拠点でなければならぬと考えます。こうした認識から、2019年12月に教学長期ビジョン「明治大学グランドデザイン2030」を発表しました。基本コンセプトは、「前へ『個』を磨き、ともに持続可能な社会を創る」。これは、本学の建学の精神である「権利自由」「自立自治」の現代的表現に他なりません。研究で、受入研究費を2030年までに50億円に、論文の国際共著率を30%にまで引き上げること目標としています。研究活動の活性化とその質の保証は、大学改革の最重要課題の一つです。教育では、対面授業とメディア授業とのベストミックスを考え、学内規程・ガイドラインを制定・策定するなど、新たな教育を展開しています。私が学長として目指しているのは、世界の大学と本学との融合です。世界中の大学から、講義や教員をクロス・アポイントメント制度を通じて明治大学に取り込み、世界標準の教育を実現したいと考えています。社会連携・社会貢献の分野では、地域社会に向けた「知の拠点」としてリカレント教育を強化。2015年度より開始した「女性のためのスマートキャリアプログラム」に続き、

新たに2023年夏、男女問わず学べる「明治大学PREMBAプログラム」をオンラインで開講します（2023年7月現在予定）。2022年4月に誕生した新教育棟「和泉ラーニングスクエア」には、アクティブラーニングの推進を目的として、学生個人やグループでの学びを促進する「グルーブボックス」や、学生同士が偶発的に集まり出会うことでイノベーションを起こす「プレゼンテーションラウンジ」等、さまざまな新しい仕掛けや工夫を数多く盛り込みました。利用開始から1年以上が経ちましたが、利用者である学生・教員からは高い評価を頂いています。また2025年4月には、「生田第二中央校舎(仮称)」が開館予定です。新しい校舎で学友と交流し大きく成長を遂げた明大生が、全世界で活躍し新しい時代を切り開いていくことを、学長として大いに期待しています。創立者の理念や創立時の歴史背景が、その大学の背骨を形成することは間違いありません。来るべき150周年に向けて、明治大学はこれらも果敢に「前へ」と進みます。

は、人類の生存そのものに対する深刻な脅威になりつつあります。さらには、ロシアによるウクライナ侵攻のような国家間の対立も、各地で顕在化しつつあります。

と尊厳を脅かす諸問題に向き合い、これを解決する技術・システム・思想・知恵を生み出すという重大な役割を担っています。「権利自由」「自立自治」を建学の精神とする本学は「人間が人間として生きるに値する」と

平和で持続可能な社会（世界）の創出を目指す研究・教育拠点でなければならぬと考えます。こうした認識から、2019年12月に教学長期ビジョン「明治大学グランドデザイン2030」を発表し

ました。基本コンセプトは、「前へ『個』を磨き、ともに持続可能な社会を創る」。これは、本学の建学の精神である「権利自由」「自立自治」の現代的表現に他なりません。研究で、受入研究費を2030年までに50億円に、論文の国際共著率を30%にまで引き上げること目標としています。研究活動の活性化とその質の保証は、大学改革の最重要課題の一つです。

新たに2023年夏、男女問わず学べる「明治大学PREMBAプログラム」をオンラインで開講します（2023年7月現在予定）。2022年4月に誕生した新教育棟「和泉ラーニングスクエア」には、アクティブラーニングの推進を目的として、学生個人やグループでの学びを促進する「グルーブボックス」や、学生同士が偶発的に集まり出会うことでイノベーションを起こす「プレゼンテーションラウンジ」等、さまざまな新しい仕掛けや工夫を数多く盛り込みました。利用開始から1年以上が経ちましたが、利用者である学生・教員からは高い評価を頂いています。また2025年4月には、「生田第二中央校舎(仮称)」が開館予定です。新しい校舎で学友と交流し大きく成長を遂げた明大生が、全世界で活躍し新しい時代を切り開いていくことを、学長として大いに期待しています。



だいくのこうまぐ 大六野耕作学長
1977年明治大学法学部卒業。82年同大学大学院政治経済学研究所博士後期課程単位取得退学。明治大学助教授、教授を経て2020年より現職。専門は比較政治論・比較政治経済学。編著に『比較政治学とデモクラシーの限界』など。

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 入試広報事務局 TEL 03-3296-4139 <https://www.meiji.ac.jp/exam/>

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020年から、実際に海外に渡航する形での留学は中止せざるを得ない状況となり、代替手段として、短期留学と中長期留学のそれぞれで「オンライン留学」を実施。また2021年秋には、他大学に先駆けて学生派遣（実留学）を再開。2022年度中も学生の安全確保を保ちつつ、多数の学生を派遣しました。2030年においては、在学生

日本は近代化の過程で、当時の先端知識や技術を全てローカライズ（日本語化）できた世界でも稀な国です。この結果、優れた品質や技術で勝てれば外国語は必要ないという意識も生まれましたが、グローバル化した世界では、多様な文化・価値観・歴史的背景を持つ人々とコミュニケーションを図り信頼を得ることが欠かせません。2008年に国際日本学部を開設した理由はここにあり

りました。2013年には、社会（世界）の様々な現象をデータサイエンスの観点から解析する総合数理学部を作り、ビッグデータの処理やAIの技術を駆使して現代の問題解決を図る人材の育成を始めています。2022年度からは、全学的な数理・データサイエンス・AIの理解力・活用能力の底上げを目指し、「数理データサイエンス人工知能リテラシーレベルプログラム」を全学部でスタート。2023年度には文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。

明治大学は1881年、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操によって「明治法律学校」として創立されました。3人は鳥取、山形、福井から藩の貢進（選抜）生として、明法寮（のちの司法省法学校）に学び、その後、岸本と宮城はフランス留学で当時のフランス自由主義に大きな影響を受けました。

建学の精神は「権利自由」「独立自治」。初代校長の岸本は、1903年に明治大学へ改称した際の演説「明治大学の主義」の中で、「官僚が国を動かすために法律の知識を持つのは当然。しかし、それに流されない独立した個人を作る…」ことの重要性を強調しました。「個」の確立を通じて、社会を支える一人の市民を育てるという精神です。つまり、エリートを作るというよりは、時代に流されず、為政者に左右されない個人を作りたいというのが、明治大学の理念なのです。これは現在の教育理念「『個』を強くする大学」に継承されています。

明治大学

私（大六野耕作学長）は、政治経済学部長に就任した2008年頃からグローバル化に取り組みました。この時の思いは、「卒業生が社会に出て、会社で責任あるポストに就く頃、明治出身者が時代を席捲してほしい。ここから20年が勝負」というものでした。5つの国際化GPA採択をはじめ、この10年間の取り組みで年間355名（2009年度）にすぎなかった留学経験者は、2019年度には2326名と6.5倍になり、海外からの留学生も874名から2320名に増えました。

国際化とは、英語ができることでも留学することでもなく、ある種の「触媒」だというのが持論です。海外に出ることで学生の意識に化学反応が起き、一皮剥けた人間になる。これが重要なのです。海外大学のサマーセッションに行った学生のGPAデータ（成績）を見ると、面白いことに気づきます。英語力とGPAとの間には全くといってよいほど相関はなく、本学でのGPAが良ければ、サマーセッションでの成績もよい。しっかりと考えている学生はどこでも通用する。もちろん英語ができれば、彼らの学びはさらに豊かになります。

明治大学は2031年に創立150周年という大きな節目を迎えます。その時、本学はどのような大学になっているのでしょうか。周知のように、経済活動のグローバル化は歴史生まれに見る豊かさをもたらす一方で、エネルギー問題、地球温暖化、グローバルな感染症拡大など、国や地域を超えた深刻な問題を生み出しました。新たな感染症

『個』を磨き、ともに持続可能な社会を創る

着実に歩んだ国際化への道
私（大六野耕作学長）は、政治経済学部長に就任した2008年頃からグローバル化に取り組みました。この時の思いは、「卒業生が社会に出て、会社で責任あるポストに就く頃、明治出身者が時代を席捲してほしい。ここから20年が勝負」というものでした。5つの国際化GPA採択をはじめ、この10年間の取り組みで年間355名（2009年度）にすぎなかった留学経験者は、2019年度には2326名と6.5倍になり、海外からの留学生も874名から2320名に増えました。

学生の就職先も変わってきました。「就職マーケットは日本だけじゃない」と、海外の大学・大学院へ留学し、海外の企業・日本の商社や外資系企業、OEC Dなどの国際機関に就職する学生も増えています。



駿河台キャンパス・リパティタワー